



～県議会議員 関本まさきの県政報告～

2024年冬号

発行責任者：関本真樹
大和郡山市小泉町918

携帯：080-6215-0287

E-mail：mightgain5625@yahoo.co.jp

12月定例議会報告

■ 12月の定例会においても山下知事から出された議案は、条例改正や物価高騰対策等の補正予算、**関西広域連合への全面参加**に関するもの等全て可決されました。概要は右記。



■ 今回の12月議会において、自由民主党・無所属の会及び改新ならの一部議員らから議員の期末手当引き上げ（0.1月分）の議案が提出されました。岸田首相は増額になる分を自主返納、京都市議会においては市民の暮らしをよくするために、令和6年1月から令和9年3月まで議員報酬2割削減するということを自民党も含め全会一致で可決しました。が、奈良県議会ではこういった議案が出されており、6月議会で会派：日本維新の会から出した議員報酬2割削減の議案も否決されています。物価高騰で生活が苦しくなっておられる方も多く、到底理解を得られるものではないと日本維新の会、公明党、共産党は反対しましたが賛成多数で可決されました。私たちは今後増額相当分は身を切る改革として集約し、被災地への寄付等を行ってまいります。

直近で発表された県の動き

■ 令和5年12月5日発表 ならの道リフレッシュプロジェクト

令和6年度から令和10年度まで5ヶ年、総事業費約80億円をかけて道路の計画的に維持管理。

- ・ 限られた予算で多くの路面を修繕すべく表層修繕を実施するも、すぐに損傷し修繕が追い付かず
→大型車交通量1000台/方向以上の県管理道路を損傷度に応じた舗装修繕を実施し耐久性向上
- ・ 主要道路での草刈りに多額の費用がかかるも追い付かず住民満足度が向上しない
→道路の外側をコンクリートなどで覆い雑草のはみだしを軽減させる
(市内だと奈良大和郡山斑鳩線：富雄川沿いの道路、片桐中学校南側あたり)
- ・ 要修繕箇所の状況が電話だと伝わりにくい、道路パトロールは日常的に行うことが困難
→LINEによる通報サービスを始める、ドライブレコーダー画像をAIで診断し異常箇所を検出

■ 令和5年12月22日発表 めくもりあふれる公園プロジェクト

令和6年度から令和10年度まで5ヶ年、総事業費約22億円をかけて馬見丘陵公園、奈良公園、大淵池公園、竜田公園、**大和民俗公園**の改修を行っていく。内容は公園によって異なるが、主要な園路のバリアフリー化、洋式便器やおむつ交換台の設置などトイレの整備、授乳施設の設置、車いす優先区画やゆずりあい区画などおもいやり駐車場の設置、休憩施設の設置 です。

もちろん正式には次年度予算が議決されてからですが県としての計画を打ち出しています。

ニュースの感想やご意見、お困りごとなどなんでもお寄せください。SNSやホームページも是非ご覧ください。ポスター設置箇所のご提供やお手伝いいただける方もお気軽にご連絡ください！



観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会での質疑(抜粋)



①外国人観光客の誘客について。外国語版の県観光ホームページの記事の更新日が最新のもので2022年3月と表示されている。更新頻度及びアクセス数は？

外国語版ホームページは毎月約5～8万件程度のアクセス数がある。コンテンツは随時更新しており、直近では11月にセキュリティ対策強化で更新した。ご指摘の箇所は新着情報ではないがトップ画面にあり、今後よりよい見せ方も考えていく。



②あをによし観光アプリについて。自治体によってはアプリでスタンプラリーを実施して周遊を促したり、行動データを集積しているが現状の活用状況は。新しく開発を進めている観光アプリとの住み分けはどうする考えか。

スタンプラリーについては、年に2回社寺の特別な開帳を掲載している祈りの回廊というパンフレットを発行し、そのアプリでスタンプラリーは実施しているが行動データ等とはとっていない。現行アプリは行きたいところを検索してもらい、新しいWebアプリは趣味嗜好にあった観光施設、宿泊施設などをおすすめするものです。



■英語版のインスタグラム等SNSと併せてインターネットでの観光広報を強化して頂きたい、アプリがいくつもあると面倒なので、統合など利便性の向上にも取り組んでほしいと要望

文教くらし常任委員会での質疑(抜粋)



①(仮称)奈良県子どもまんなか未来戦略について。取り組みはいくつか記載があるが、大きな方向性も肝要である。目標設定についての考え方を問う。

今月中に公表が予定されているこども大綱も勘案する必要がある。大綱において子ども、若者、子育ての当事者に対してどう目標設定がされるかを注視し、県の子ども・子育て政策を総合的に推進できるようにしていく。



②高校給食について。共働き世帯が増えてきていることは周知の事実である。保護者負担の軽減や栄養バランスのとれた食事を提供するといった観点や公立高校の魅力づくりの一環として、食堂のない高校等で市町村の給食センターの協力も仰ぎながら高校給食を実施していくべきではないかと考えるがどうか。

他府県で魅力づくりの一環で実施している事例があることは承知しているが、本件としては進学教育重点校、推進校などを進めることで魅力づくりに取り組んでいる。



■①について。令和5年3月策定の奈良っ子はぐくみアクションプランの目標設定や達成指標の中には、これで課題解決できているかの確認になるのか疑問を感じるものや、従前より少し数値を改善させただけの数値目標もある。高い目標を掲げ、課題解決に向かって積極的に取り組んでいくという姿勢を持っていただきたいと述べ、他に県立中高一貫校の授業時数や高校受験の際に配慮が必要な生徒への対応とその後のサポートについても質疑をしました。